疾患の定義，診断とは？

What is the definition and diagnosis of disease?

北海道大学大学院医学研究院呼吸器内科学教室准教授　今野　哲　*Satoshi Konno*

Key words

定義，診断，気管支喘息，COPD，フェノタイプ，エンドタイプ

Summary

慢性呼吸器疾患の多くは，その定義の曖昧さと，それぞれの疾患により定義に至る視点が異なるため，特に複数病態の合併症例をとらえることが困難となる。患者に診断を下すということは，決して病名をつけることが目的ではなく，個々の患者に対する最大のメリットとなる手段を見出すことである。これまで用いられてきた種々の疾患の定義をすべて否定する訳ではないが，特に難治性疾患の病態，複数疾患の合併病態を理解するには，これまでの疾患の理解および定義のみでは限界がみえてきたのも事実である。将来的には，現在使用されている病名をいったん忘れ，分子生物学的，あるいは単に治療反応性という観点で，疾患をとらえる必要があるのかもしれない。

はじめに

今後，さらなる超高齢化社会を迎えるにあたり，一人の患者が複数の疾患を有することが通常の世の中となり，呼吸器疾患に限定しても同様である。これまでのいわゆる“evidence-based medicine”は，純粋に1つの疾患のみを有する患者を対象とした臨床試験の結果を基に構築されてきた。本稿では，種々の慢性呼吸器疾患の定義に関し，特に気管支喘息と慢性閉塞性肺疾患（chronic obstructive pulmonary disease；COPD）を例にあげ，将来の両疾患概念の可能性について，筆者なりの意見を述べる。

I　唯名論（Nominalism）と診断（Diagnosis）の意味

Wikipediaによると，『「人間」とか「イヌ」あるいは「薔薇」などは，類の概念として形相存在として実在するのかどうかという議論（普遍論争）があり，これに対し，唯名論（ゆいめいろん，Nominalism）とは，類の概念は実在しないという考え』と記載されている[1]。これを疾患に当てはめてみると，「気管支喘息」や「COPD」という病気は，人間が「気管支喘息」「COPD」という疾患概念を信じるが故に存在するということになる。この両疾患の存在を肯定すれば，おのずと，両疾患の合併（asthma-COPD overlap；ACO）という言葉も生まれてしまう訳である。

実際の日常臨床に目を向けてみると，目の前の患者が，「気管支喘息」なのか？「COPD」なのか？　と鑑別に困る症例にしばしば遭遇する。同様の

SAMPLE

Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.